

事業報告書 (令和2年度)

事業名 壁新聞「誰一人取り残さない (No one will be left behind)」-SDGs の達成に向けた開発途上国での取り組み-

団体名 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構 担当者名 山上正道
活動の様子がわかる写真 (データもお願いします) と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容 (日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

SDGs をテーマにした壁新聞を作製し、ESD プロジェクトのメーリングリストで同壁新聞の PDF データを周知、配布した。また、当団体のホームページ上でデータを公開し、自由にダウンロードができるよう設定済み。PDF は最大 A1 サイズで印刷ができる画質で作成しているが、配布用に A3 サイズで印刷をしても読みやすい文字の大きさにしている。



「ゴール2: 飢餓をゼロに」をテーマに取り上げ、世界の食糧事情、当団体が活動している中米ホンジュラスの現状や取り組み内容、いま岡山でできることなどを分かりやすくまとめた紙面構成にした。SDGs が設定しているそれぞれのゴールが自分たちの生活とどのようにつながりがあるのかを知ることで、身近なところから具体的な行動を起こすきっかけになればと考える。

2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

ESD の視点である「課題を自らの問題として捉え、一人ひとりが自分にできることを考え、実践していくこと」を踏まえ、開発途上国の現状と課題を「自分ごと」として理解し、身

(様式第8号)

近なところからの取り組みができるきっかけとなるよう、SDGs 新聞を作成した。当団体が中米ホンジュラス国で実施しているプロジェクトは SDGs (持続可能な開発目標) の達成に貢献するものであり、ESD との関連も深い。SDGS 新聞ではホンジュラスの現状や課題、解決のためのプロジェクトを具体的な事例として紹介した。

3. 取組の成果 (参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など)

「わかりやすい言葉で書かれており、押し絵などが入っているので、見やすい」

「縁取りの色で SDGs に関連していることがすぐに理解できる」

など、教育関係者や生徒から高評価を得た。そのほか、ホンジュラスという国はあまり知られていないので、いい学びの機会になった、5歳未満の子どもの死亡率の高さに驚いた、食糧の廃棄量の多さに驚いた、などの感想が寄せられ、生徒にとって新たな情報を提供することができたと考える。

4. 今後の課題と展望

今回、初めて教育機関向けの壁新聞を作成したが、内容が多岐にわたっていて情報量が多く、一度では吸収できない、小学生低学年にはフリガナがないと読みづらいといった意見もあった。今後は、学年ごとのニーズに合わせた工夫をすることも検討したい。